

.....

.....

.....

1

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[35]歳、 勤続年数[15]年、 現場経験年数[15] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [車長]
○当事者 B	年齢[30]歳、 勤続年数[5]年、 現場経験年数[5]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [機関員]
○当事者 C	年齢[27]歳、 勤続年数[4]年、 現場経験年数[4]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [隊員]
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

1 1. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A	Cと共に車内で救命処置をしていた。	
経過 2	B	狭隘な路地で救急車を運転していた。	
経過 3	C	Aと共に車内で救命処置をしていた。	
経過 4	B	鋭角な三叉路を左折した。	
経過 5	B	スライドドア下部を路肩の置石に接触した。	
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。周囲の視界が確保できていなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：ドアミラーの調整不足（スライドドア下部まで見えなかった）

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

安全管理教育テキスト（消防大学校）を利用しての危険予知訓練の実施。

○装備・資機材の対策について

始業点検時にドアミラーの調整を入念に行うようにした。
（調整によりスライドドア下部まで見えるようになった）

○活動環境の対策について

狭隘な路地を走行する時は、事前に置石等を確認することとした。

○指揮・情報伝達の対策について

事故現場付近見取図

